

豊前市教育委員会が目指す教育

《人として大切な心と生き抜く力を持ち、ふるさと豊前を愛する子ども》

国の教育改革の動向
新学習指導要領の方向性

推進目標

「行きたい、行かせたい」と言われる
学校づくり

県・事務所の教育課題
県教育施策実施計画

社会を生き抜く
確かな力をもつ子ども

- ・主体的・対話的で深い学びの実現
- ・充実したICT環境の中での情報活用能力の育成
- ・ALT等の配置充実による英語力の育成
- ・特別支援教育の充実

小中一貫校の強みを生かした教育基盤

- ☆ 目標・方策等の共有・共通実践
- ☆ 9年間を見通した特色ある教育課程
- ☆ 児童生徒の交流 等

自分の命、他の人の命を
大切にする子ども

命・人権プログラムに
基づいた小中9年間を
通した教育による
人権感覚・知的理解の育成

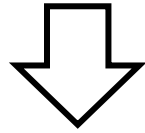
学校統合によるよさを生かした教育基盤

- ☆ 多様な人・考えと触れあう教育
- ☆ ICT機器、人的配置等の教育環境の充実
- ☆ 教職員間の磨き合い、部活動の充実 等

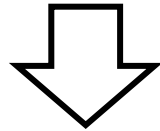
ふるさと「豊前」を知り
大切にする子ども

郷土プログラムに
基づいた小中9年間を
通した教育による
郷土愛の育成

豊前市立学校の将来的な望ましい姿と、そのための教育条件の整備を検討 **豊前市「教育みらい」検討委員会 設置**

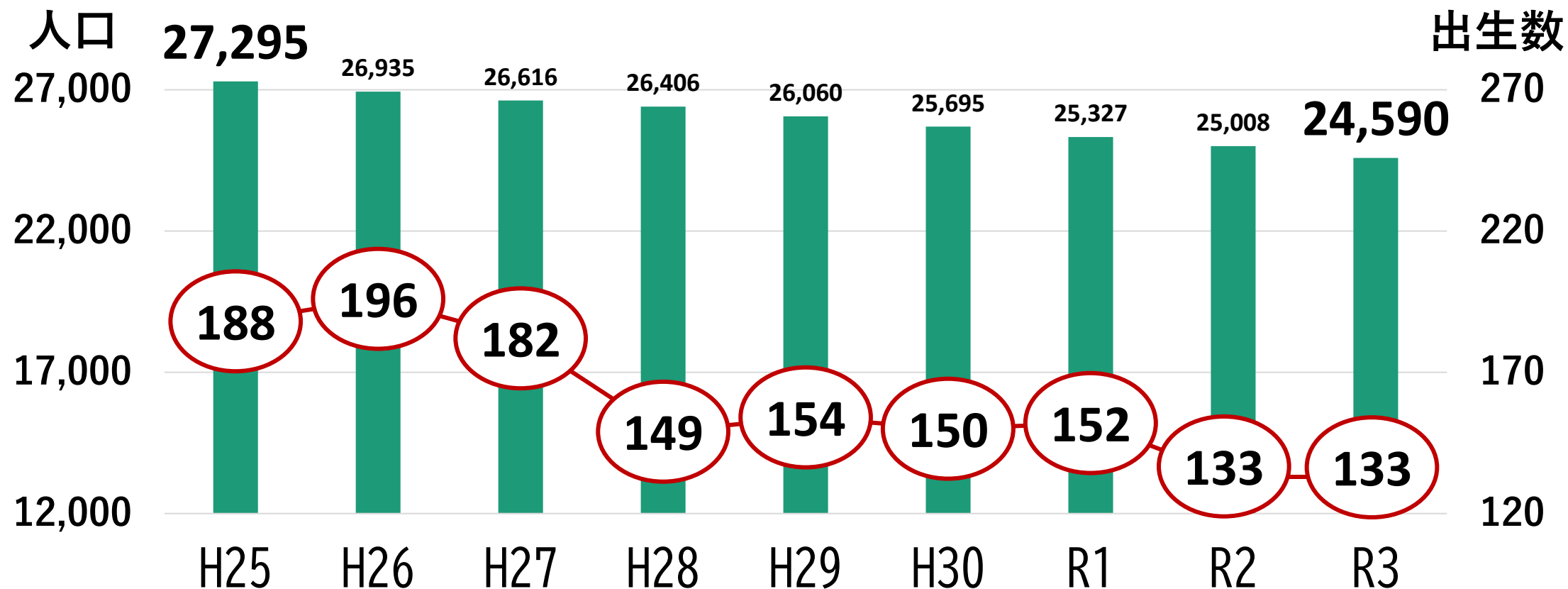


令和2年3月 豊前市「教育みらい」検討委員会 提言
「豊前市の目指すべき教育の姿と学校の在り方」



令和3年10月 豊前市 方針
「豊前市立学校適正配置基本方針」

1. 人口と出生数の推移



全国的な人口減少・少子化と同様に、市内の年間出生数は133人まで落ち込んでいます。

2. 児童生徒の推移（小学校）

	2005 H17年度	2010 H22年度	2015 H27年度		2022 R4年度		2027 R10年度		2040 R22年度
八屋	270	236	199		254		131		88
大村	39	17	12		30		30		18
宇島	189	206	189		212		158		97
角田	111	86	71		63		47		35
山田	132	120	84		75		33		25
千束	186	239	159		164		162		103
三毛門	293	323	274		211		178		104
黒土	175	153	143		123		103		69
横武	86	77	64		59		32		24
合岩	60	50	59		62		18		14
	1,541	1,507	1,254		1,253		892		577

2. 児童生徒の推移（中学校）

	2005	2010	2015		2022		2034		2040
	H17年度	H22年度	H27年度		R4年度		R16年度		R22年度
八屋	230	224	207		224		143		116
角田	68	47	42		28		26		21
千束	300	275	268		176		157		135
合岩	51	40	48		44		8		8
	649	586	565		472		334		280

R4. 4. 1に0才以上の子どもの数から推計可能な最終年度
 小学校：2028(令和10年度)
 中学校：2034(令和16年度)

3. 児童数および学級数の推移（令和10年度は推計）

		八屋	大村	宇島	角田	山田	千束	三毛門	黒土	横武	合岩	計
令和 4年度	児童数	254	30	212	63	75	164	211	123	59	62	1,253
	学級数	10	4	9	6	6	6	7	6	6	6	66
令和 10年度 (1学級 35人で 推計)	児童数	131	30	158	47	33	162	178	103	32	18	892
	学級数	6	4	6	5	3	6	6	6	4	3	52

色付け：複式学級あり（R4の角田・合岩については定数配置以外の教員の配置により、複式が解消された学級があります。）

4. 学校施設の現状（小学校）

	校舎					体育館				
	建築年度		延床面積	築年数	健全度	建築年度		延床面積	築年数	健全度
	西暦	和暦				西暦	和暦			
八屋	1978	S53	4,300	41	37	1985	S60	915	34	40
大村	1987	S62	1,969	32	59	1954	S29	231	65	45
宇島	1982	S57	3,326	37	68	1983	S58	805	36	40
角田	1968	S43	1,988	51	40	1994	H6	755	25	77
山田	1977	S52	1,740	42	37	1995	H7	756	24	75
千束	2001	H13	2,500	18	100	1999	H11	784	20	67
三毛門	1984	S59	3,162	35	65	1986	S61	846	33	65
黒土	1992	H4	2,168	27	67	2003	H15	800	16	81
横武	1990	H2	1,951	29	62	2008	H20	704	11	81
合岩	1997	H9	2,504	22	72	1997	H9	769	22	65

4. 学校施設の現状（中学校）

	校舎					体育館				
	建築年度		延床面積	築年数	健全度	建築年度		延床面積	築年数	健全度
	西暦	和暦				西暦	和暦			
八屋	1982	S57	4,607	37	65	1988	S63	1,139	31	65
角田	1981	S56	2,033	38	59	1989	H1	970	30	75
千束	1980	S55	4,386	39	82	1987	S62	1,101	32	77
合岩	1982	S57	2,138	37	62	1993	H5	951	26	77

延床面積：m² 健全度：100点満点

出典：豊前市学校施設長寿命化計画（令和2年3月）

5. 少人数教育の現状

(1) 文部科学省の手引より

メリット（よさ）	デメリット（課題）
○一人一人の学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めたきめ細かな指導が行いやすい ○意見や感想を発表できる機会が多くなる ○様々な活動において、一人一人がリーダーを務める機会が多くなる ○異年齢の学習活動を組みやすい、体験的な学習や校外学習を機動的に行うことができる ○地域の協力が得られやすいため郷土の教育資源を最大限に生かした教育活動が展開しやすい	○クラス同士が切磋琢磨する教育活動が出来ない ○集団の中で自己主張をしたり、他者を尊重する経験を積みにくく、社会性やコミュニケーション能力が身につみにくい ○児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい ○クラブ活動や部活動の種類が限定される ○教員個人の力量への依存度が高まり、教育活動が人事異動に過度に左右されたり、教員数が毎年変動することにより、学校経営が不安定になったりする可能性がある

5. 少人数教育の現状

(2) 豊前市の現状（アンケート調査）より

メリット（よさ）	デメリット（課題）
○区域外から児童生徒を受け入れられること、いつでも受け入れられること ○大人数や先輩からの圧力が受けにくいこと ○多様な課題をもつ児童生徒に個別に対応したり、柔軟に対応や貴重な体験（特色ある教育課程、行事等）ができたりすること ○複式学級解消につながる ○地域が学校を応援してくれること、地域と学校のつながりが強いこと ○保護者が積極的にPTA活動に参加してくれること	○職員体制の問題（教頭、主幹教諭不在の状況、職員数が少ないため出張・年休等の対応、複式学級への対応、校区が広く家庭訪問の問題） ○他地区から来ている児童生徒の保護者の理解、校区内と校区外の保護者の考え方の違いがあること ○多様な意見が出にくいこと、知的な刺激が少ないこと、人間関係が固定されること ○通学範囲が広く、登下校の負担が大きいこと ○課題を抱えた児童生徒の割合が高いため、対応が難しいこと ○バス通学等により、各種行事、部活動への参加が制約されること

6. 豊前市の現状から見える課題・問題点

- ①児童生徒数が減少し、集団の中で切磋琢磨できる環境が失われてきた
- ②ほとんどの小学校が1学年1学級編成となっているため、クラス替えができなくなっている
- ③ほとんどの中学校が1学年2学級以下の編成となっているため、教科担当教師がそろわない

6. 豊前市の現状から見える課題・問題点

- ④十分な部活動が出来ず、他市町へ転出する状況になっている
- ⑤施設の老朽化による校舎等の整備費、維持管理費、及び十分な教育条件の整備に伴う14校すべての学校への予算確保が必要であるが、厳しい状況になっている

7. 小中学校の適正化に関する経緯

平成 9 年	南部 4 校を 1 校に統合、合岩小学校を新設
平成 1 1 年	川内小学校を山田小学校に統合
平成 1 4 年	畑小学校を角田小学校に統合

※現在小学校 1 0 校、中学校 4 校

7. 小中学校の適正化に関する経緯

年 月	事 柄	主な内容
令和元年 7月	豊前市総合教育会議	・ 豊前市「教育みらい」検討委員会の設置の承認及び確認
令和元年8月～令和2年1月	豊前市「教育みらい」検討委員会	・ 第1回～5回 開催 委員：地域・保護者の代表、学校関係者 学識経験者
令和2年 3月	豊前市「教育みらい」検討委員会	・ 提言書 『豊前市の目指すべき教育の姿と学校の在り方』

・現在1学年200名以上いる子ども達 近年では150名規模となっている
状況にどう対応するか

・建築後30～40年経過している校舎 管理また十分
な教育条件が保たれている

学校規模の
適正化・適正配置
(学校再編) が必要

これから

行きたい・行かせたい 行かせるべき 行かざるべき
京都市「スーパーワン・オンリー」教育の具現化のため

8. 基本方針における学校再編成の考え方

① 特色ある学校づくり

- ・ I C T環境や A L T等配置を充実させ、情報活用能力や外国語能力を確実に育てるための学び
- ・ 個々の児童生徒の実態に応じた特別支援教育の充実
- ・ 豊前9年プログラムである『命・人権プログラム』『郷土プログラム』による教育活動を充実するために、従来の6・3制の枠にとどまらない「9年間を通しての教育」小中一貫教育の取り組み

8. 基本方針における学校再編成の考え方

② 地域コミュニティの核としての学校づくり

これまでの「校区・地域」という概念を超えた新しい「地域」という枠組みで、家庭・地域が一体となって子ども達と関わり育てる関係づくりを学校運営の基軸にすえていく必要がある

8. 基本方針における学校再編成の考え方

③ 学校の適正規模

- ・ 児童生徒が多様な考えを交流し合う学習環境は不可欠
- ・ 学校全体で小学校では12～18学級程度、中学校では10学級程度の規模で、クラス替えが可能で、一定の教職員数がそろった規模が望ましい
- ・ 小人数の学校を希望する児童生徒に対応するため、小規模校のよさを生かしながら、9年間できめ細かい指導を可能とする環境を併せて整備する事も必要

8. 基本方針における学校再編成の考え方

④ 学校施設の活用の可能性

- ・現在の14校の長寿命化・大規模改修の予算確保は極めて困難
- ・将来的な小中一貫校（義務教育学校）としての教育活動が可能な敷地を持つ旧築上中部高校跡地・現合岩小学校（南部グラウンド等含む）を活用し統合中・小中一貫校とする事が望ましい
- ・現八屋及び千束中学校を改修し、統合小学校とする事も可能と考える

9. 適正化・適正配置 学校の再編成（案）

○第一段階

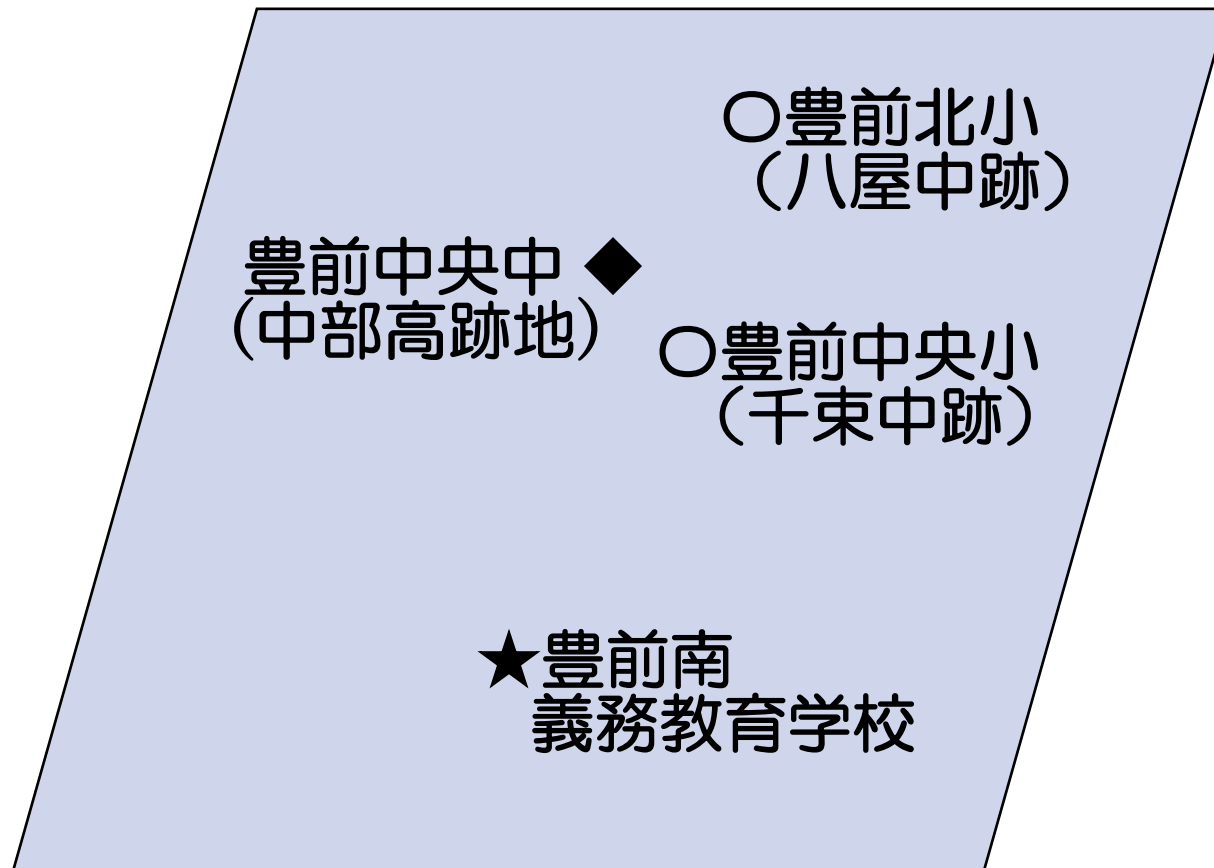
現在ある小中学校14校の大規模改修をおこなう前に再編成を行ったうえで

○最終的に必要となる可能性のある段階

1 学年が100名程度の児童生徒数が現実的となる段階

9. 適正化・適正配置 学校の再編成（案）

第1段階の再編案（2020年代の在り方）



◆豊前中央中：400～500人規模
（学年5クラス規模）

○豊前北小：400～550人規模
（学年3クラス規模）

○豊前中央小：400～550人規模
（学年3クラス規模）

★豊前南：100～150人規模
（学年1クラス規模）

〈学校名についてはいずれも仮称〉

9. 適正化・適正配置 学校の再編成（案）

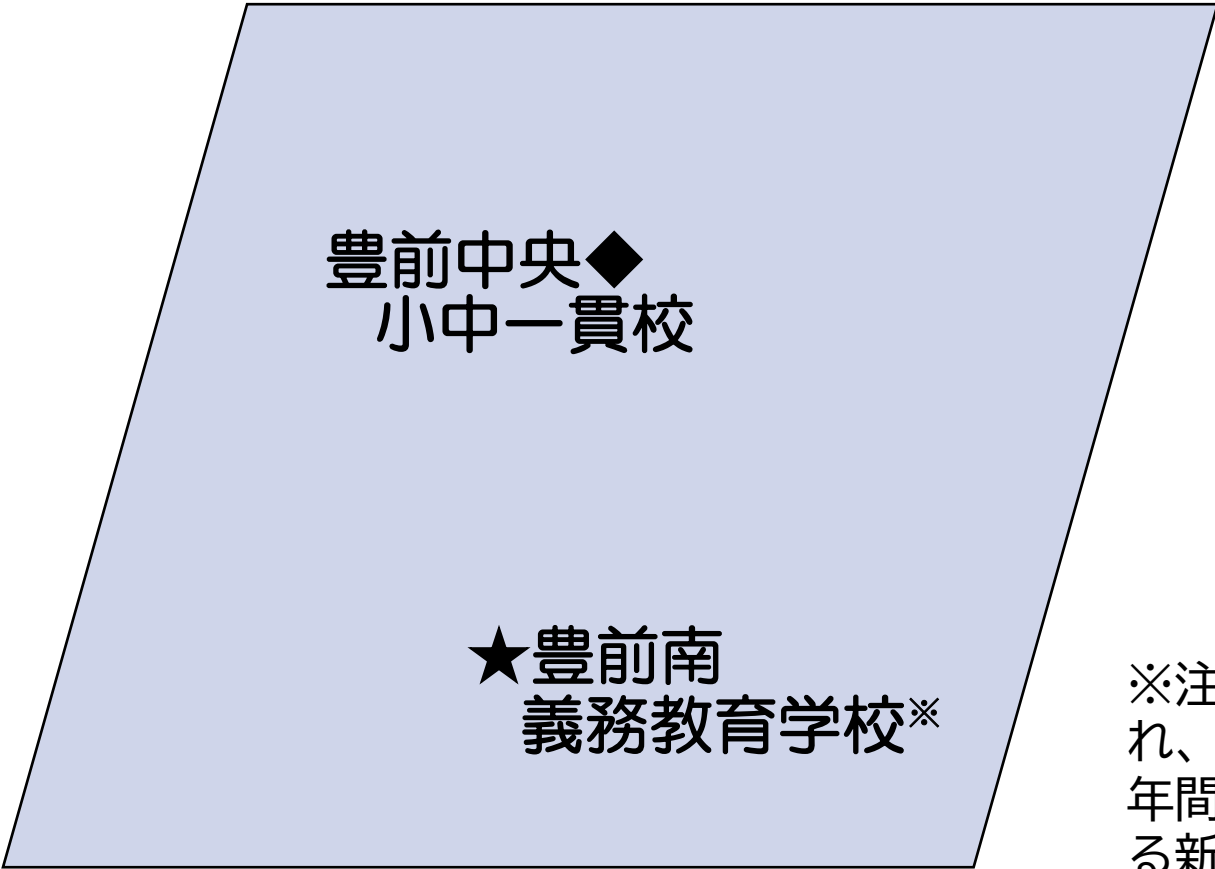
第1段階の再編案（2020年代の在り方）

通学区域（案）

学校名（仮称）	通学区域
豊前中央中学校	八屋中・角田中・千束中 校区
豊前北小学校	八屋小・宇島小・三毛門小 校区
豊前中央小学校	大村小・角田小・山田小・千束小・ 黒土小・横武小 校区
豊前南義務教育学校	合岩小・合岩中 校区

9. 適正化・適正配置 学校の再編成（案）

最終的に必要となる可能性のある再編案



豊前中央◆
小中一貫校

★豊前南
義務教育学校※

◆豊前中央：800～900人規模
（学年3クラス規模）

★豊前南：100～150人規模
（学年1クラス規模）

〈学校名についてはいずれも仮称〉

※注 一人の校長の下、一つの教職員組織が置かれ、義務教育9年間の学校教育目標を設定し、9年間の系統性を確保した教育課程を編成・実施する新しい種類の学校のこと。

10. 検討・調整が必要な事項（例）

- ① 統合後の学校の校舎位置の決定
- ② 校名、校章、校旗、校歌、校則、校訓等の決定に向けた調整
- ③ 修学旅行や遠足等の行事、特色ある教育活動等の調整
- ④ 制服、かばん、学用品の調整
- ⑤ 教材、教具、備品、図書等の整理・廃棄、他校での利活用
- ⑥ 学校の歴史に関わり保存展示すべきものの選定・保存方針の決定（校旗・トロフィー等）
- ⑦ 学校保管金、PTA会計などの整理・引継ぎ
- ⑧ 記念式典の準備、実施
- ⑨ PTA規約の改訂、役員等の選出
- ⑩ 統合後の学校運営協議会や学校関係者評価等のメンバー調整
- ⑪ 通学区域に関する規則の改正、スクールバスの購入や運行委託、運行計画の策定
- ⑫ 廃校となる校舎・校地の跡地利用の検討

1 1. これからの流れ

	2022 令和 4年度	2023 令和 5年度	2024 令和 6年度	2025 令和 7年度	2026 令和 8年度	2027 令和 9年度	2028 令和 10年度
新設中学校	基本計画	基本設計	実施設計	造成及び新築工事		開校	
義務教育学校		基本設計	実施設計	増築・改修工事		開校	
新設小学校				基本設計	実施設計	改修工事	開校



みやこ町立犀川小学校

〒824-0231 福岡県京都みやこ町犀川本庄 620 番地
TEL: 0930-42-0022 FAX: 0930-42-0063

